

国際会議から 電気工学技術国際会議 (ICEE 2015)

本会議は、電気工学に関する国際会議で、情報、電気交通、エネルギー、環境、ロボティクスといった幅広い範囲の研究成果の発表の場として、1995年以来年に1回、日本、中国、香港、韓国の各学会により共催されています。

会議では、約140件の口頭発表がありました。また、口頭発表とは別に初日には基調講演、各日にはパネルセッションやポスターセッションが設けられており、パネルセッションでは「鉄道輸送」の題目で鉄道事業者、研究者によるセッションが行われました。口頭発表の発表者も共催の4カ国からの参加者が多く、また学生の発表者も多く見られました。

筆者は、「高速走行に適したオーバーラップ構造の検討」に関して発表を行いました。発表会場の各教室に入ってみると、大きな円卓が3つあり、各卓に発表者を含め



奈良場 勇人
電力技術研究部
電車線構造研究室
研究員

5、6人程の聴講者が座る形で、教室というよりはカフェテリアに近い雰囲気です。リラックスして発表することができ、とても貴重な経験をさせていただきました。同じセッションでの電気交通に関する発表としてはESS (Energy Storage System) や非接触給電に関連する研究内容が特に目を引き、筆者も発表者と意見交換を行いました。



香港市街地

正式名称：The International Conference on Electrical Engineering 2015
 開催国：中国(香港)
 期間：2015/7/6-9
 主催：香港電気学会
 開催頻度：1年に1回
 次回開催予定：2016年7月 日本(沖縄)
 ホームページURL：http://www.hkie.org.hk/icee2015/

国際会議から 低温工学会議/国際低温材料会議 (CEC/ICMC 2015)

低温工学会議/国際低温材料会議 (CEC/ICMC) は主に液体窒素温度 (-196℃) 以下の温度域における冷却技術や低温材料に関する国際会議であり、1975年の第1回以来、今年で21回目となりました。西暦奇数年には本会議が米国で開催され、偶数年には国際低温工学会議 (ICEC) と国際低温材料会議 (ICMC) の共催の国際会議 (ICEC/



会場風景

ICMC) が開催されています。

本会議は500名を超える人々が参加し、極低温冷媒、冷凍機、断熱技術、冷却システム、超電導材料・機器など多岐に渡る発表がありまし

た。特に宇宙産業が盛んな米国だけあって、宇宙応用に向けた超小型・軽量冷凍機の開発などの日本の学会

では聴けない講演などが数多くありました。筆者らは小型超電導ケーブルについて発表し、そのコンパクト性や曲げ特性が優れている点に高い関心が示され、充実した意見交換をすることができました。

講演内容とは直接関係ありませんが、開催地のアリゾナ州ツーソンは砂漠地帯であり、昼は40℃、夜は20℃、寒暖差が20度以上にも達する、厳しい気候を体験することができました。また講演中にはゲリラ豪雨が大粒の雹ひょうとなり会場を襲い、屋根に雹が当たる騒音で講演が10分ほど中断するハプニングもありました。



石原篤
材料技術研究部
超電導応用研究室
研究員

正式名称：Cryogenic Engineering Conference and International Cryogenic Materials Conference 2015
 開催国：アメリカ合衆国(アリゾナ州ツーソン)
 期間：2015/6/28-7/2
 主催：Cryogenic Engineering Conference と International Cryogenic Materials Conference の共催
 開催頻度：1回/2年
 次回開催予定：2017年7月 アメリカ合衆国(ウィスコンシン州マディソン)
 ホームページURL：http://www.cec-icmc.org/



会場周辺